

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福岡運輸株式会社 茨木北七	階数	2階
建設地	大阪府茨木市彩都はなだ二丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2020年10月22日
敷地面積	24,340㎡	作成者	松尾 浩志
建築面積	7,318㎡	確認日	2020年10月23日
延床面積	13,060㎡	確認者	篠原 正典



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	「彩都はなだ」の地名に沿うように、青い外装の事務所棟を配置した。倉庫棟と事務所棟が分離しているボリュームは、事務所を振った配置でより印象的な外観構成とした。省エネ型、自然冷媒で環境に配慮された冷凍設備を持つ都市近郊の食品物流施設として地域に貢献する施設となっている。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	対象外	Q2 サービス性能 耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。また、ゆとりのある計画とし、機能性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	・接道緑化を計画することで、十分な植栽を確保し敷地内温暖環境の向上にも配慮している。	
LR1 エネルギー	照明はLEDを採用し、高効率機器を選定している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用やリサイクル材の建材、再利用できるユニット部材(OAフロア)を採用することで、資源の保全に努めている。
LR3 敷地外環境	・LCCO ₂ 削減に配慮している。 ・周辺道路の渋滞緩和に寄与している。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0091

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)福岡運輸株式会社 茨木北センター新築計画						
	建設地	大阪府茨木市彩都はなだ二丁目						
	用途/区分	工場						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						評価対象外	
④	エネルギー削減						5	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.9	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					-	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							